

# 敷島南小学校 学校関係者評価書

令和4年 2月25日(金)  
敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

## 令和3年度 学校関係者評価委員会

新型コロナウイルス感染予防のため、書面で、評価委員の方々へ自己評価書を提示し、評価委員の方からの御意見等をいただいた。

発送日：令和4年 2月16日(水)

学校関係者評価委員

秋山 佐和子・土橋 満・岡島 一浩・森本 清・浅原 千恵子・田中 光一 (PTA会長)

## I 学校側から提示された内容

### 1 自己評価結果及び保護者、児童アンケート結果と今後の方針

#### ◇ 成果

- ・ 教職員の積極的な姿勢による、充実した教育活動への取組
- ・ 児童の学力向上につながる授業実践
- ・ 友だちと仲良くし、進んで学習し、学校生活を楽しむ児童の姿
- ・ 児童の規範意識の向上

#### ◇ 課題 (いっそう充実させたい事項)

- ・ 危機管理マニュアルの周知徹底
- ・ 家庭学習 (宿題以外) の自主的な取組の指導
- ・ ICT教育の充実 (GIGA スクール構想に向けての取組)
- ・ 児童が友だちや教職員に、保護者が教職員に何でも相談できる体制づくり
- ・ 信頼される学校づくり
- ・ 「働き方改革」への意識改革と取組の強化
- ・ 「創甲斐教育」のさらなる充実と発展
- ・ 子どもが「学校を楽しみ」と感じる教育活動の更なる推進

## II いただいた主な内容

### 1 学校教育目標・学校経営

- ・ コロナ禍においても、より良い教育を目指している様子が分かった。
- ・ 達成状況からも健全な学校経営がなされている。
- ・ 教職員の協力のもと、学校教育目標達成に向けて学校経営が行われている。

### 2 学校運営

- ・ 保護者アンケートで「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」という項目の評価が上がっているのは、教職員の努力の表れだと思う。引き続きお願いしたい。
- ・ 多くの業務があり大変だと思うが、時間外勤務の短縮に努めてもらいたい。
- ・ 教員志望者の減少、採用倍率の低下等がもたらす資質低下が危惧される。その点について改善策にあるように「校内研究会へ主体的にかかわる」ことで、払拭してもらいたい。

### 3 学習指導

- ・ コロナ禍で学習指導も大変だと思うが、ICTも、もっと活用できればと思う。
- ・ 児童用アンケートの「学校の授業は楽しいですか」が、前年度より、なぜ、下がったのかを深掘りしてほしい。
- ・ 児童の思考力、判断力、表現力を高める授業を構築していくことは難しいと思う。まず、具体的な指針を示し、取組を教職員間で共有、実践、評価してほしい。保護者に「こんな授業を進めています」といった発信をすることも必要である。

### 3 生徒指導

- ・ 「お子さんのことで相談できる先生がいる」ことは、子どもにとっても、保護者にとっても心強いことだと思う。
- ・ 児童の行動様式、保護者の価値観、生活スタイルの変化など、問題行動への対処を含めた生徒指導 (学業、社会生活、余暇、健康、安全等) が学習指導以上に難しいと思う。児童に寄り添った生徒指導を、これからもお願いしたい。

### 4 地域との連携

- ・ 敷南だよりやホームページで学校の様子を知ることができて有難い。
- ・ コロナ禍では難しいと思うが、終息したら、地域の人材活用、外部講師の招聘など、地域に開かれた学校を進めてほしい。

- 5 学校の特徴
  - ・ 清掃に関して、教職員、児童とも肯定回答が高く、素晴らしい。
  - ・ 挨拶について、地域にいて、日常、元気よく挨拶をしてくれる児童が多い。
- 6 創甲斐教育について
  - ・ コロナ禍で、児童の体力維持が気になるが、Ⅶ－3「走・投・跳」などの基本的な技能を身につけるように努めている」の肯定回答が100%であることに安心した。
  - ・ 具体的に、どのような取組が行われているのか、わからないが、肯定回答が高いので、引き続き取り組んでほしい。

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ・ 校長のリーダーシップの下、学校教育目標達成に向けた学校経営が行われている。また教育課程に基づいた学習指導、生徒指導等の学校運営が適切に、また計画的に実施されている。
- ・ 基礎基本を重視した授業や個に配慮した少人数指導等きめ細かな学習指導が、推進されている。
- ・ あいさつや清掃活動は、子どもたちの生活の中に徐々に習慣化されつつある。今後とも学校では、家庭や地域と連携・協働した取組を進めていきたい。
- ・ 子どもたちに、「自分の命は自分で守る」力を身につけさせることを最大の目標として、危機管理マニュアルを含む防犯防災教育を行っている。また、子どもたちの発達段階を考慮し、どのような場面でも、子どもたち自身が危険を予測し、回避するなどの安全に対する能力をさらに高めるための具体的な指導が推進されている。
- ・ 肯定的回答の割合が多く、総合評価は良好な水準にあると思うが、少数の否定的回答に目を向ける必要がある。
- ・ コロナ禍で学校にも直接伺うことができないが、通学路等で見かける児童の笑顔や輝く瞳を見ると、いきいきしていて学校が楽しいことが推察できる。

### II 特徴

#### 1 教職員の自己評価より

全ての項目で肯定的な回答割合が高かった。特に、学校教育目標、学校経営方針を意識した教育活動の実践は、高い水準にあるといえる。学校長のリーダーシップのもと体制も確立され、各自の意見が尊重され、それが生かされる組織になってきている。

危機管理については、子どもの命を預かっているという自覚と危機管理に関する訓練等を通して、学校全体での危機管理意識を高めていきたい。

時間外勤務の削減に関しては、多忙の中、取り組めない教職員がいる。今後も、業務内容の改善などを進め、勤務時間外の勤務について削減できるように取組を進めたい。

校務支援システムの活用・ICTを効果的に活用した授業に関しては、十分に行っていない教職員もいるなどの課題がある。今後も、校外での研修会への参加、校内研修等を通じて、教職員のスキルを高める工夫が必要である。

#### 2 児童のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多い。静かで落ち着いた雰囲気の中で楽しい学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も「やまなしスタンダード授業づくりの7つの視点」に基づいた授業づくりをより意識した授業改善が求められる。

生活面では、「もし困ったことがあったら、相談できる友だちや先生がいますか」等、教職員と児童の人間関係について、約8割が肯定的な回答である。

児童一人一人に目を向けたきめ細やかな相談体制、学級内での好ましい人間関係の構築を一層図っていく必要がある。

#### 3 保護者のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多く、学校への信頼がうかがえる。家庭学習への取組に関しては、学校として、家庭学習の手引きの見直し等を行い、改善を図っていく。また、コロナ禍で、PTA行事と同様に、地域での行事も減る中、コロナ収束後には、地域の行事への参加を促していく必要がある。

生活面では、保護者としての義務や責任についてしっかりとした意識をもって学校に協力していきたいと考えている。